

## いち早くの収束を願い

### 新型コロナウイルス感染症対策物品贈呈式

新型コロナウイルス感染症対策物品贈呈式が3月30日(水)に行われ、井沼洋クリニック井沼洋院長、社会福祉法人内潟療護園成田道稔事務局長、社会福祉法人みちのく会吉田照生理事長へ抗原検査キットや消毒液の目録が手渡されました。

町長は「町内で感染拡大していないのは町内各施設の様々な対策のおかげ。今回贈呈した物品で、これまで以上に感染拡大防止に向けがんばってほしい」とエールを贈りました。



## 安全に通学できるように

### 中泊ライオンズクラブが寄贈

中泊ライオンズクラブが3月31日(木)に町教育委員会を訪れ、反射キーホルダーなどの「交通安全セット」を寄贈しました。

教育長は「いつもありがとうございます。子どもたちも安全に通学できます」と感謝の言葉を述べました。

## 眠っている町の魅力を発掘する

### 地域おこし協力隊委嘱状交付式

宮越家「離れ・庭園」の全国発信を含めた観光コンテンツの掘り起こしや磨き上げ、外国人観光客の受け入れ環境の整備・強化、情報発信などに取り組む「地域おこし協力隊」の委嘱状交付式が4月1日(金)に役場町長室で行われました。

町長は「地域おこし協力隊が活躍するための地ならしがようやくできた。協力隊の皆さんにはさまざまな角度からまだ眠っている町の魅力を発掘してほしい」と期待の声を上げていました。

隊員の山田敏雄さんは「地域の皆さんの協力のもと、たくさんの観光客が来る町を目指し活動していく」と目標を掲げていました。



## 各地域の存続のため

### 令和4年度兼任集落支援員委嘱状交付

人口が半数以下になっても地域の暮らしを守っていくため、町内会の役員などが集落支援員を兼ねる「兼任集落支援員」の委嘱状交付式が4月1日(金)に役場大会議室で行われました。

昨年度から始まった兼任集落支援員制度に今年度から新たに中里・小泊合わせて12地区が加わり、中里17地区、小泊8地区、計25地区に配置されることとなりました。

町長は「集落支援員制度を始めてから小泊地域へのピュア移動販売などの実績が上がってきている。兼任集落支援員の皆さまには地域のために一肌脱いでいただき、より一層暮らしやすくなるよう、町とともにがんばってほしい」とお願いしました。

今年度から加わった下豊岡地区の長利謙二さんは「一人暮らしの見守りや空き家が自分たちの地区の課題になると思う。まだスタートに立ったばかりなので役場の人と協力し、課題解決に向けがんばっていきたい」と意気込みを語りました。

任期は令和4年4月1日から令和5年3月31日までで、年度単位の委嘱となります。



## 小泊地域のシンボルとなるように

### こどもり学園落成式が行われる

こどもり学園新校舎が完成し、4月7日(木)から開校しました。

4月2日(土)には落成記念式典がこどもり学園1階多目的スペースで開催され、学校関係者や建設工事関係者が出席しました。

また、建設に携わった建設会社や校章を作成した工藤和久さん(弘前市)らへ町から感謝状が贈られました。

町長は「大きな夢の実現の過程となるこの新しい校舎で



たくさんのお思い出をつくってほしい」と希望を述べていました。

竹内信広校長は「小泊地域の子どものための学習環境の整備にご尽力いただき感謝します。こどもり学園に通う子どもたちが、心身共に健全で、地域をリードできるような人になれるよう教職員一同全身全霊で取り組んでいく」と話しました。